

下早川地区 中学生以上住民アンケート

結果報告書

平成 31 年 3 月 31 日

目次

1	アンケートの概要	1
(1)	アンケート調査の趣旨	1
(2)	実施主体と調査対象、調査時期	1
(3)	配布数および回収数	1
2	結果報告	2
(1)	回答者の年齢・性別・出身・居住地域	2
(2)	回答者の職業と収入満足度	4
(3)	地域行事・活動に対する認識	6
(4)	日常生活での不安感、困りごと	7
(5)	地域内の意見、交流の現状をどう見ているか	9
(6)	行事参加状況	11
(7)	若者世代が今後も下早川地区に住み続けるか	13
(8)	下早川地区の魅力、自慢できる点	15
(9)	地域づくりプランの 5 つの事業について	17
(10)	下早川地区の活性化についての自由回答	22
3	まとめと考察	23
(1)	アンケート結果の整理として	23
(2)	全体を通したまとめ	24

1 アンケートの概要

(1) アンケート調査の趣旨

下早川地区では平成 28 年(2016 年)2月に地域づくりプランを策定し、4月より実施して 3 年になる。ここにおいて、より一層の効果的な活動を目指し、幅広く地域住民の意見を集め地域づくりプランの内容に反映するべく、中学生以上の全住民アンケートを実施することとした。集めた結果データにより、地域住民の意見・要望を把握し、また、地域の問題点、課題等を整理し見える化する。それをもとに、広く地域住民で共有し、行動につなげることを趣旨とする。

(2) 実施主体と調査対象、調査時期

本アンケートは、自治振興協議会および、これを母体とした地域づくりプラン実行委員会により実施した。アンケートの対象は、上記(1)の趣旨の通り、下早川地区の中学生以上の全員とした。

また、アンケート票は、各区長、嘱託員のご協力のもと、平成 31 年 2 月初旬に配布し2月末にかけて回収した。

(3) 配布数および回収数

配布数は 1,896 部であり、下早川地区全域の 13 歳中学生以上の住民に1部ずつ配布した。有効回答数は 1,531 部で、80.7%の非常に高い回収率となった。

表 1 地区ごとのアンケート票配布数と回収数

集落等	全住民数(※1)	回収数
東海	128	101
田屋	523	405
育郷	207	155
中和	111	89
赤沢	56	41
新町	429	316
新道	184	125
月不見	127	105
高谷根	34	26
谷根・見滝	108	80
西塚	29	22
五十原	28	23
東塚	48	37
集落不明	—	(※3) 6
計	2012	1531
小学生以下	▲116	
総計(※1)	(※2) 1896	1531

回収率 80.7%

※1 全住民数は H31年1月1日現在の市役所住民登録者数である。

※2 本アンケートの対象者数である(全住民数から小学生以下を除いたもの)。

※3 「集落不明」とは、アンケートを公民館へ直接提出されたため居住する集落が不明である。

2 結果報告

本章では、アンケートの各問の集計結果を見ていく。

※アンケート票の全データ、自由回答欄の全記述内容については、コンピューターの表形式で整理した集計データファイルおよび「結果報告書_記述式回答一覧」をご確認ください。

(1) 回答者の年齢・性別・出身・居住地域

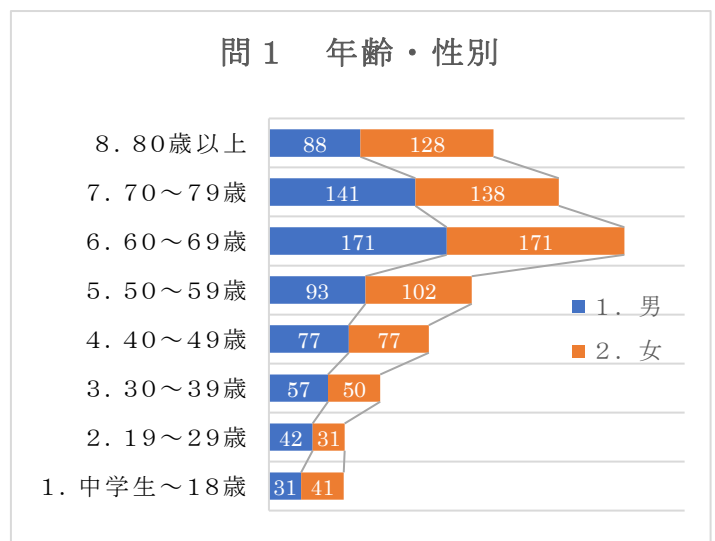
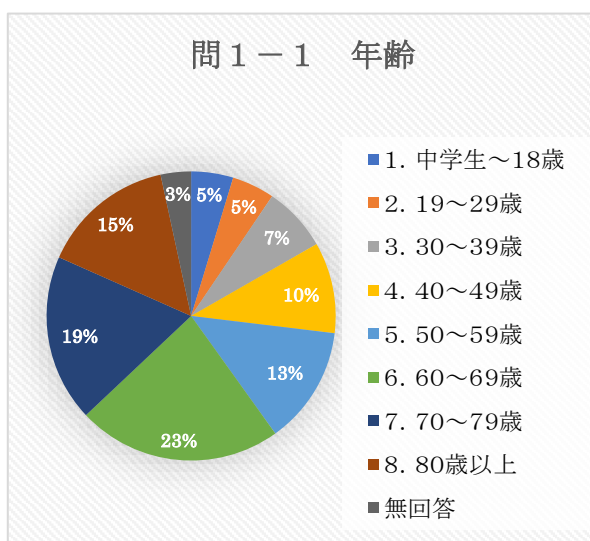
まずはアンケート回答者の基本構成(年齢、性別、居住地域)について見ていく。

① 回答者の年齢・性別（問1：単回答）

問1 あなたの年齢と性別について、あてはまる番号1つに○をつけてください。
(平成31年1月1日現在)

年齢、性別は以下の通りである。回答数のうち60～69歳が最も多い。

問1-1 年齢	1. 男	2. 女	無回答	総計
1. 中学生～18歳	31	41	0	72
2. 19～29歳	42	31	0	73
3. 30～39歳	57	50	4	111
4. 40～49歳	77	77	2	156
5. 50～59歳	93	102	7	202
6. 60～69歳	171	171	8	350
7. 70～79歳	141	138	7	286
8. 80歳以上	88	128	13	229
無回答	2	4	46	52
総計	702	742	87	1531

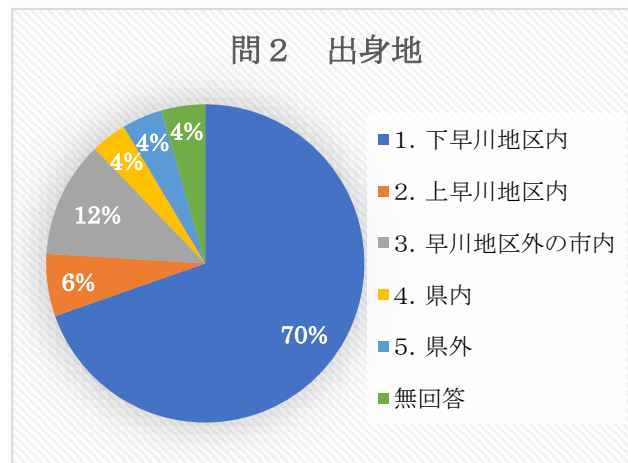


② 回答者の出身地（問2：単回答）

問2 あなたの出身地はどこですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

下早川地区を出身地とされている方が7割となっている。

問2 出身地	人数
1. 下早川地区内	1066
2. 上早川地区内	97
3. 早川地区外の市内	181
4. 県内	56
5. 県外	63
無回答	68
総計	1531

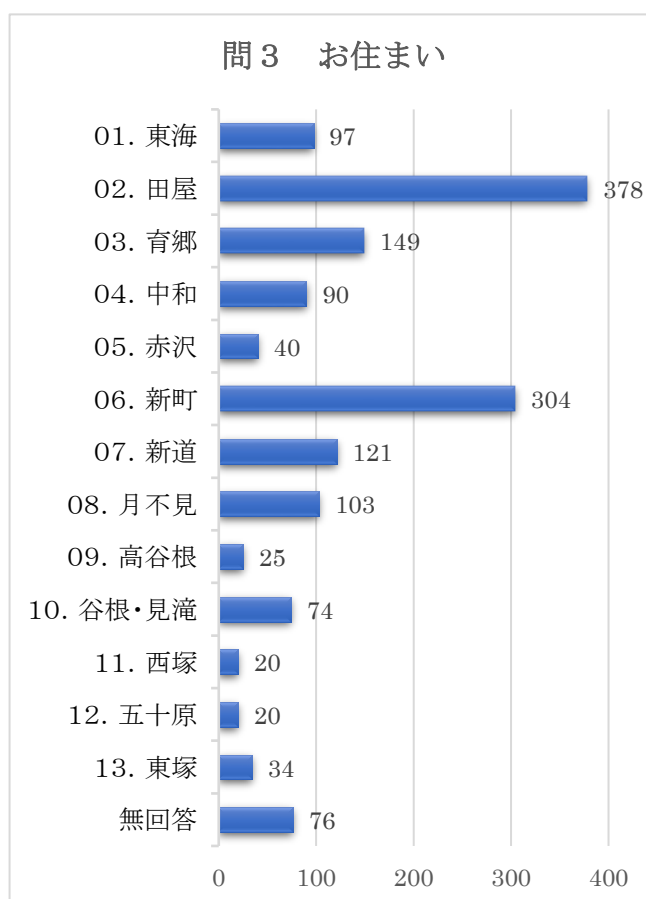


③ 回答者の現在の居住地区（問3：単回答）

問3 あなたの住んでいる所はどこですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

田屋集落、新町集落の人数の多さが目立つ。

問3 お住まい	人数
01. 東海	97
02. 田屋	378
03. 育郷	149
04. 中和	90
05. 赤沢	40
06. 新町	304
07. 新道	121
08. 月不見	103
09. 高谷根	25
10. 谷根・見滝	74
11. 西塚	20
12. 五十原	20
13. 東塚	34
無回答	76
総計	1531



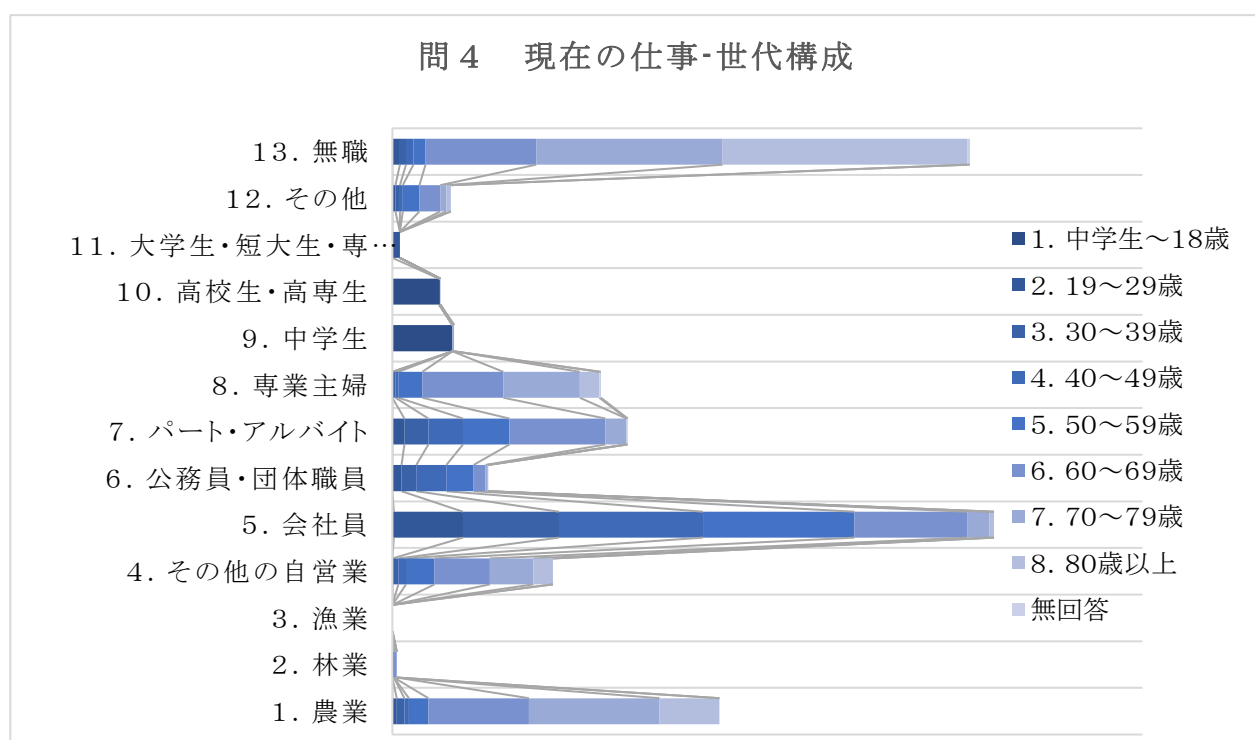
(2) 回答者の職業と収入満足度

① 回答者の職業（問4：複数回答）

問4 あなたの仕事又は学業にあてはまる番号全てに○をつけてください（いくつでも結構です）。

回答者の職業を見ていく。会社員(20代～60代)および無職(70代～)の方が非常に多い。農業従事者が3番目に多いのは農村地区の特徴であるが、農業従事者の9割は60歳以上であり、非常に高齢化している。

問4 現在の仕事	人数
1. 農業	218
2. 林業	3
3. 漁業	0
4. その他の自営業	107
5. 会社員	401
6. 公務員・団体職員	64
7. パート・アルバイト	157
8. 専業主婦	139
9. 中学生	41
10. 高校生・高専生	32
11. 大学生・短大生・専門学校生	5
12. その他	39
13. 無職	385

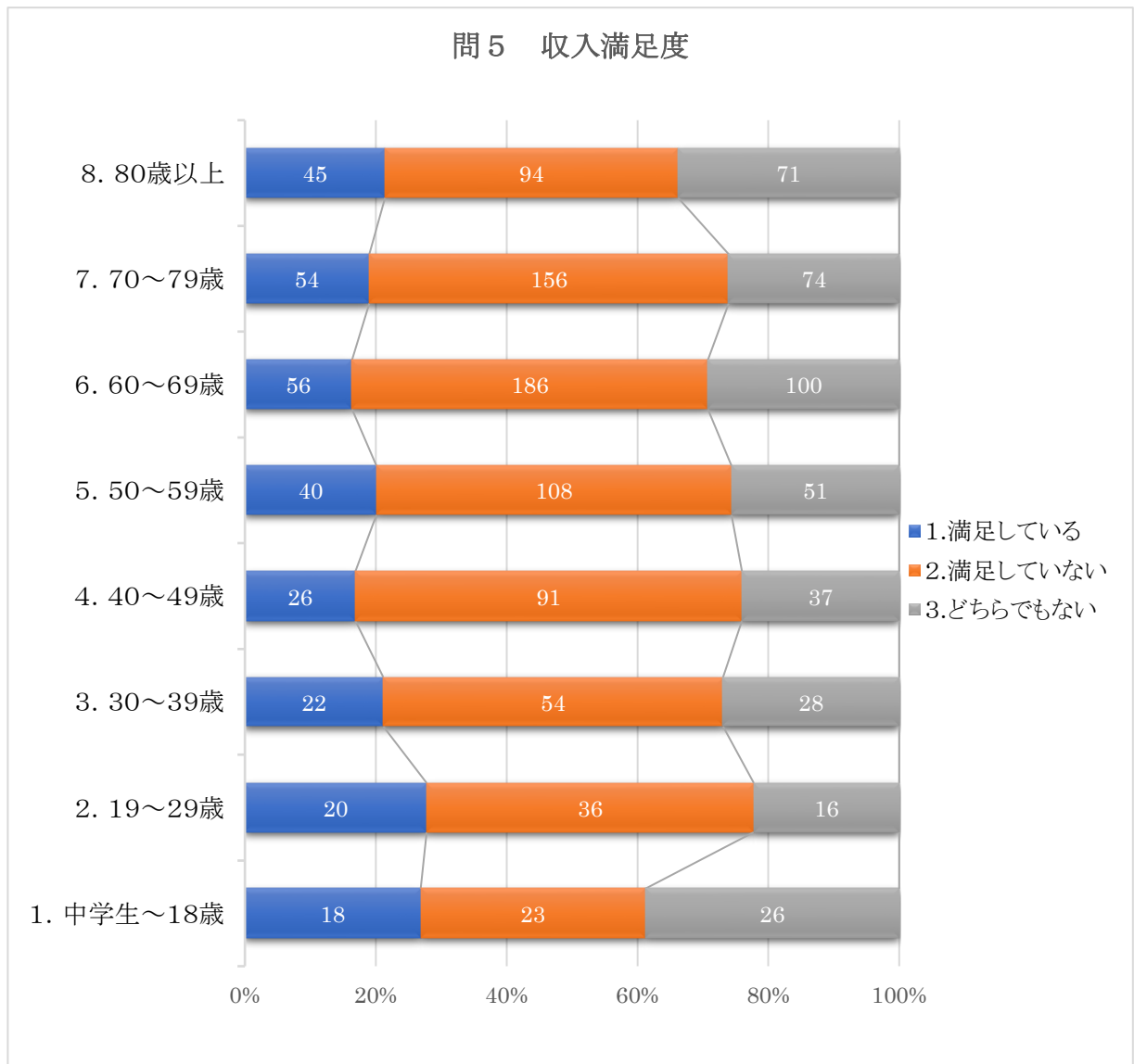
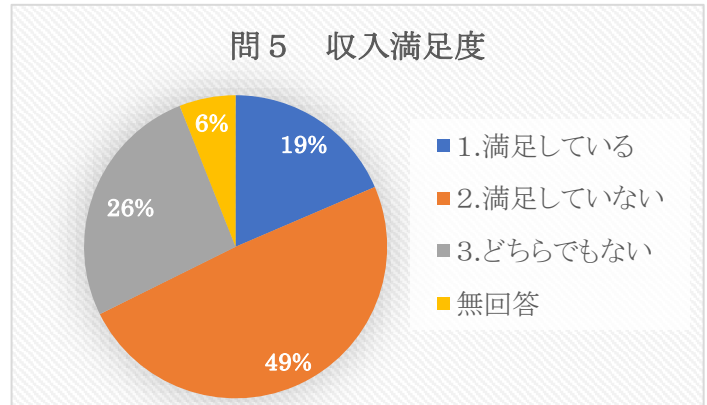


② 収入満足度（問5：単回答）

問5 あなたは、ご自身の収入（給料、年金、小遣い等）に満足していますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

全世代において「満足していない」割合が、「満足している」割合に勝っている。
特に30歳～79歳の世代では、3倍ほどの差となる結果となっている。

問5 収入満足度	人数
1.満足している	284
2.満足していない	752
3.どちらでもない	403
無回答	92
総計	1531



(3) 地域行事・活動に対する認識

① 既存行事、活動の改善点や新たな取り組み等（問6：自由回答）

問6 下早川では各地区や公民館等で多様な活動や行事を行っています、新たに取り組みたいことや改善して欲しい行事がありましたら、お書きください。

世代で見ると、40～69歳の住民が、(人口比率からみても)積極的に回答している。

様々な意見が出されたが、その中でも全体の3割(30%)以上が運動会に関するものであり、特に真夏の実施について改善を求めるものが非常に多かった。「縄ない」等の競技種目の見直しや、実施そのものの中止を求める意見も少なくなかった。綱引きについても同様(高齢化による負担等)の意見が、件数は運動会ほどではないが見られた。

もう一つ、行事が多いことへの改善要望が2割(20%)を占めている。負担の大きさを切実に訴えたものもある。これら2つは、地区全体で受け止めるべき重要事項といえる。

一方、女性や若者も参加できる行事への提案や、文化的な行事を求める声、「マージャン大会」「卓球大会」等具体的な提案もみられた。

※217件あり。「結果報告書_記述式回答一覧」をご参照ください。以下一部抜粋。

中学生～29歳	学習できるようなスペースを設けていただけると助かります。 雪合戦(全国規模) カルチャースクール(歌、ダンス、英語や中国語など教養を広げられる教室) 行事が多すぎる。役員や消防団の負担が大きい。
30～69歳	子供や高齢者の居場所づくり。とくに子どもや乳幼児のお母さんたちは公園もないので家にこもっているようで、とても心配。 運動会の時期をずらしてもらいたい(7～8月は暑すぎます)。 寺小屋的な子供の勉強など指導してもらえると良い。 文化面の活動をふやしてほしい 運動会は高齢化のため参加者が集まらない。選手集めに苦労している。特に暑い夏場の開催はいかなものか。 行事をへらすことを考えては！！その代わりに一つの行事の充実をはかり、参加人数を増やす…等 全地区へ参加を募る行事を減らすべきと存じます。その中でも真夏に行う体育大会は炎天下に子供やお年寄りには危険すぎます。
70～79歳 80歳以上	日曜、祭日など公民館を開放して運動場などに使わせてほしい。 公民館の行事が多く、(大勢の人が活動に参加してにぎわうことは良いことだと思うが)その行事を運営する人の高齢化が進み、携わる人が減少し、とても苦しい状況が年々進んでいる。もう少し行事自体を検証して、適正化を図っていただきたい。 老人にもっと集まるところがほしい。例えば会話、少々の運動(ごろごろ体操)と笑える話など。 夏の暑い時に運動会をするのはどうかと思います。 現状で手いっぱいだと思う。

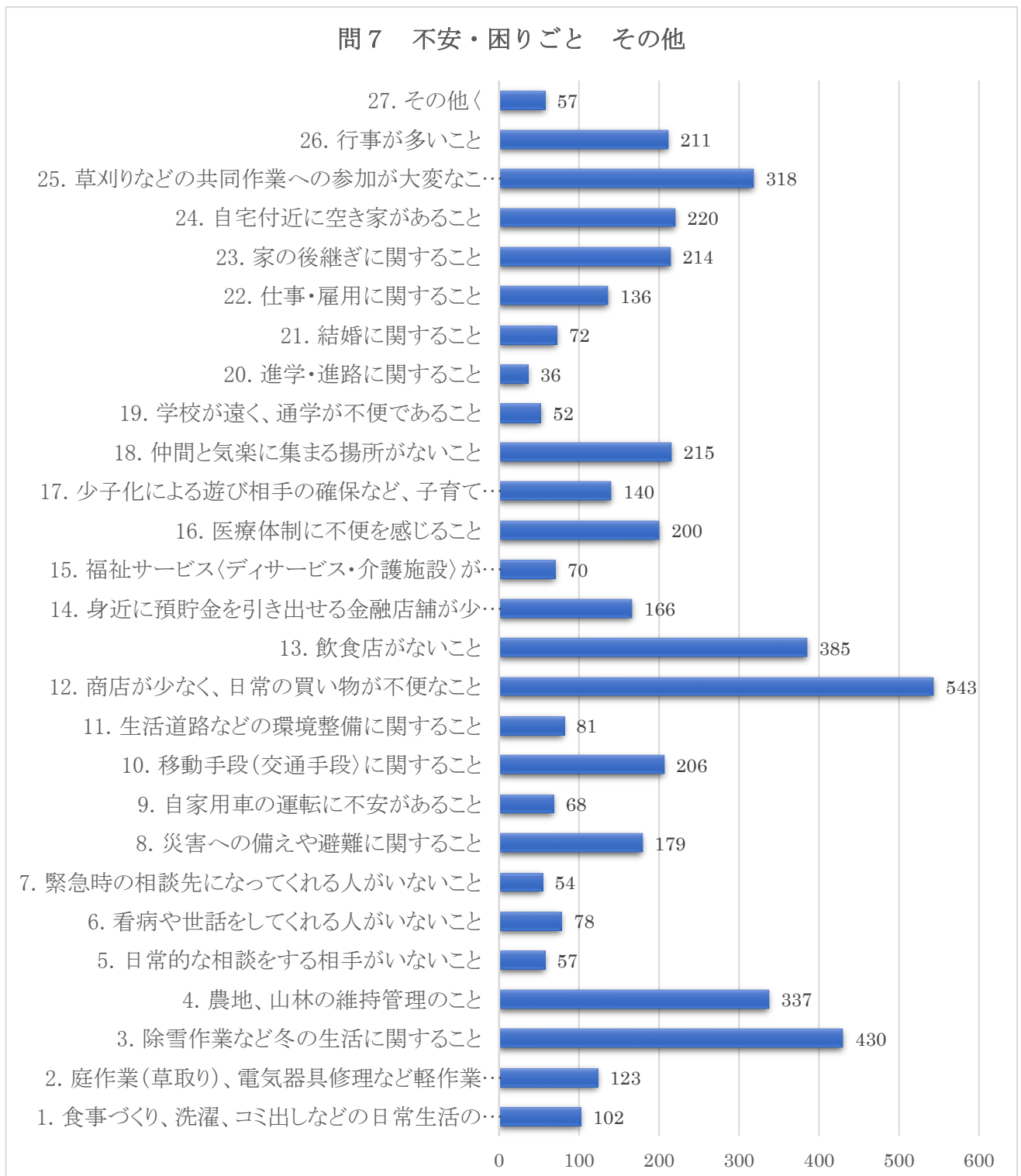
※上記回答はいただいた意見のほんの一部である。ぜひ、貴重な全意見を集計データでご覧いただきたい。

(4) 日常生活での不安感、困りごと

① 日常生活での不安感、困りごと（問7：複数回答）

問7 下早川地区での日常生活について、「不安に感じていること」や「困っていること」はありますか。あてはまる番号全てに○をつけてください（いくつでも結構です）。

1番多い回答は「12. 商店が少なく、日常の買い物が不便なこと」である。世代によって2番以降は変わるが、1番は全世代で同じであった、糸魚川市の中山間地では「雪」が1番の共通の困りごと、との認識があるが、下早川地区にとって、買い物の不便さは切実な問題であることがわかる。

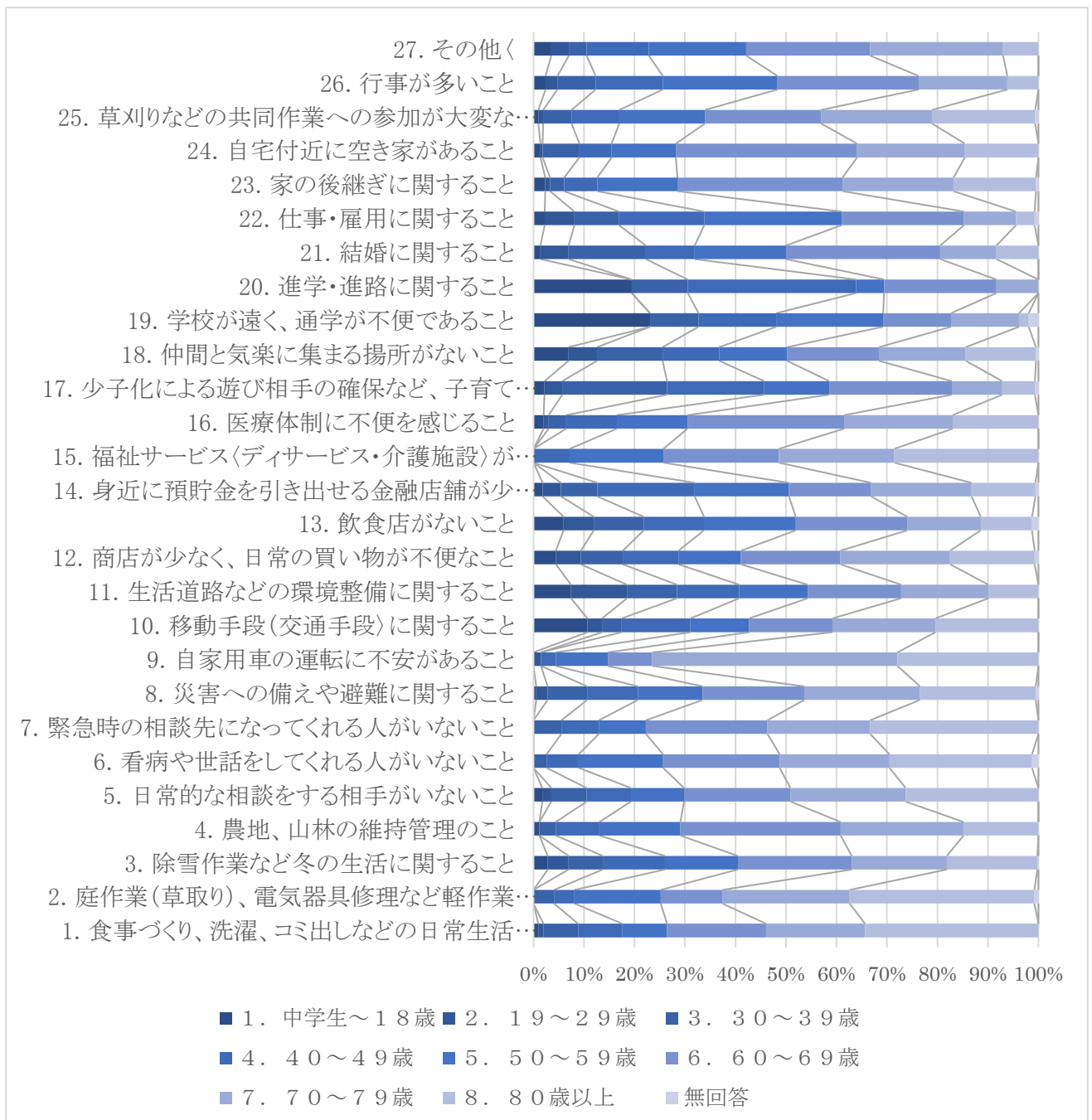


続いて年代別の割合を確認する。

若い世代は移動手段、生活道路、飲食店、仕事関係の割合が多い。その中でも中学生～18歳の世代では、学校への通学の不便さ、進学や進路に対する不安が多い。

40代以降になると、行事の多さや草刈りなどの人足についての割合が多くなる。これは前述の問6(行事への要望)の集計結果(行事への負担感)からも予想できる特徴である。

年齢が高くなるにつれ、医療、福祉系の不安の割合が大きくなっていく。その中でも70～79歳の世代で特に目立つのは、9番の自動車運転についてである。制度上、高齢者の運転継続は難しくなってきており、車を運転できなくなったときの日常生活での影響は非常に大きい。今後の地域の重要課題といえよう。



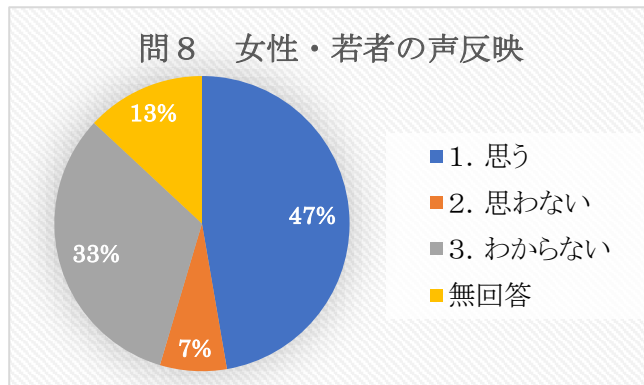
選択肢27番「その他」には48名から回答が寄せられた。より具体的な困りごと、要望が多い。「老朽化した工場」「周囲のごみ出しマナー」などから、「今は不安はないが、将来高齢化した時に不安」「全部不安」といったものまで。生の声を知ることができ、地域全体で共有していただきたい内容である。※「結果報告書_記述式回答一覧」参照のこと。

(5) 地域内の意見、交流の現状をどう見ているか

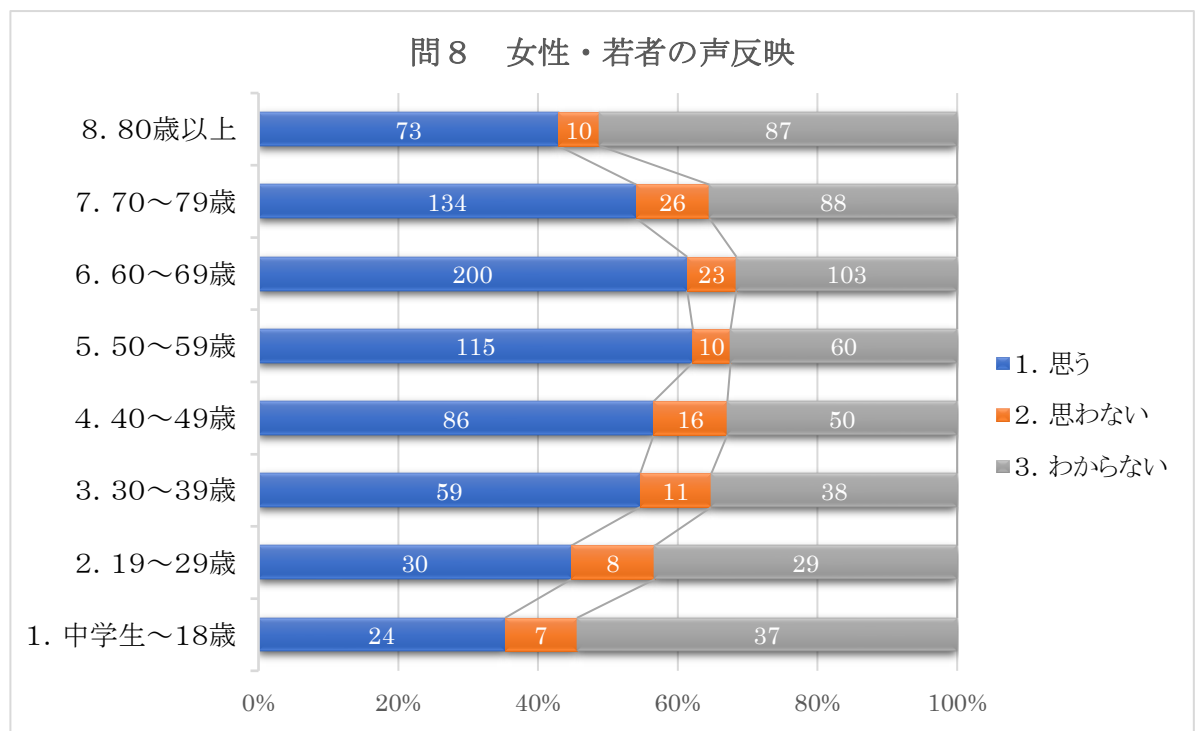
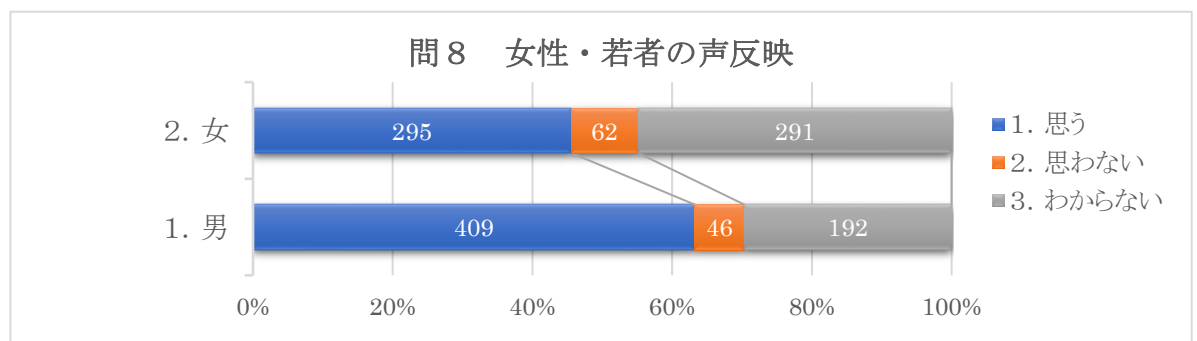
① もっと女性や若者の声を反映させるべきか（問8：単回答）

問8 あなたは、「下早川地区の活動に女性や若者の声をもっと反映されるべき」と思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「思わない」という声は非常に少ない。男性は「思う」が6割を占めるが、女性では「思う」と回答した人は4割に満たない結果となっている。



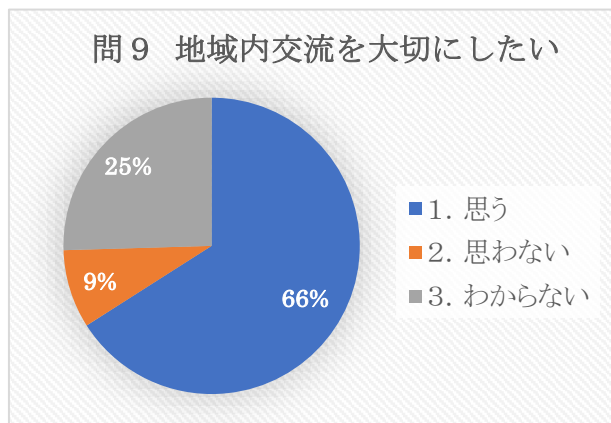
問8 女性・若者の声反映	人数
1. 思う	724
2. 思わない	112
3. わからない	495
無回答	200
総計	1531



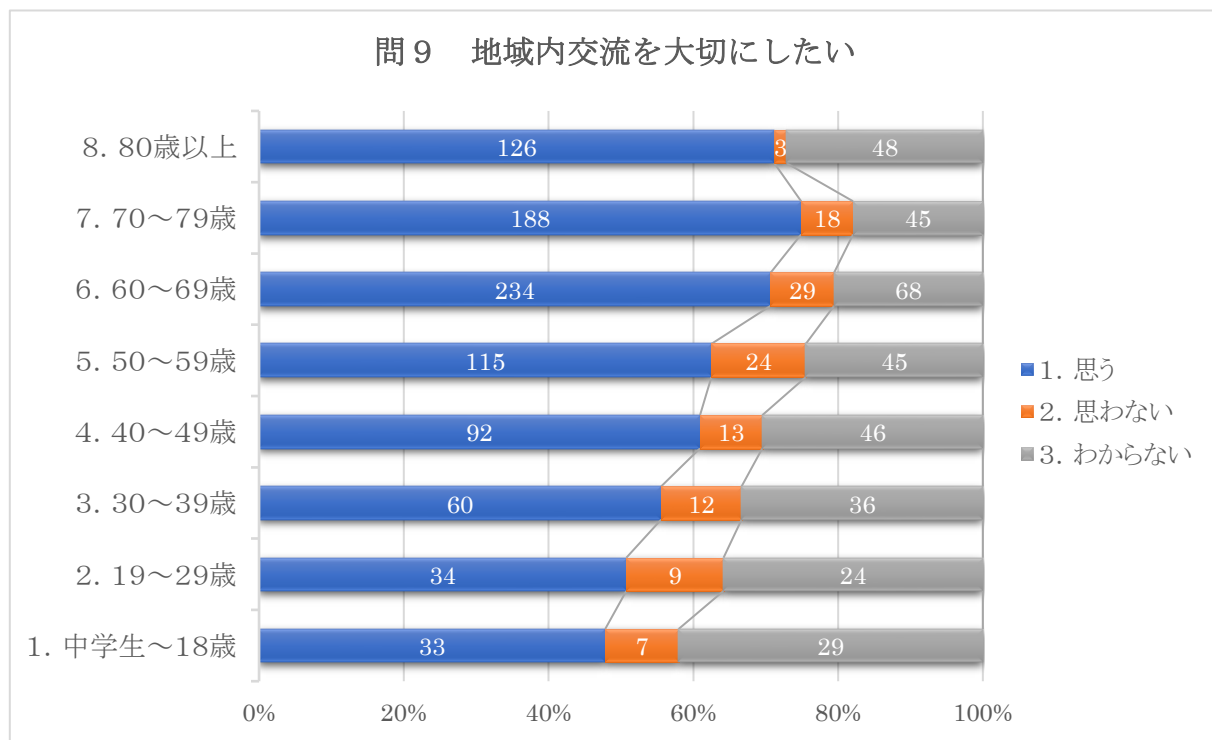
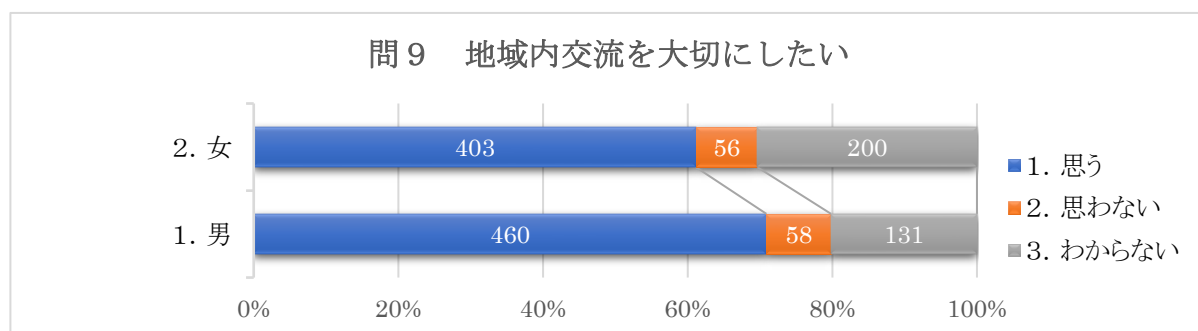
② 地域内交流を大切にしたい（問9：単回答）

問9 あなたは、「下早川地区内での人との関わり、交流、繋がりを大切にしていきたい」と思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「思う」が非常に大きな割合を占めている。若者層では若干「思わない」が多くなるが、これだけ交流を大切にしたいという割合が多いことは特筆すべきことであり、下早川地区の将来にとっても明るい結果である。



問9 地域内交流を大切にしたい	人数
1. 思う	886
2. 思わない	115
3. わからない	342
無回答	188
総計	1531



(6) 行事参加状況

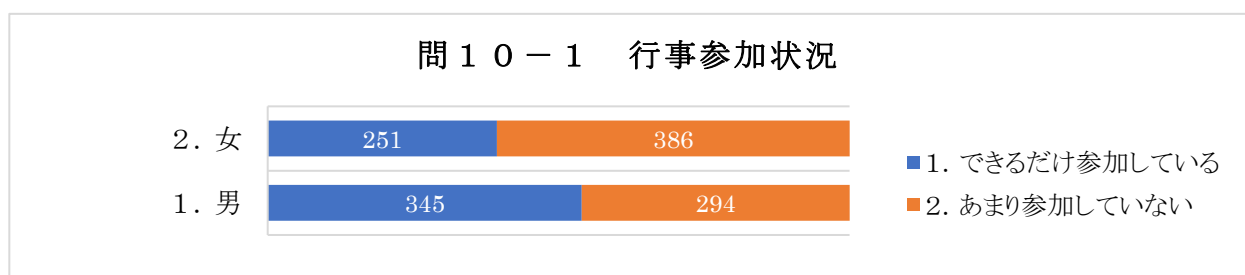
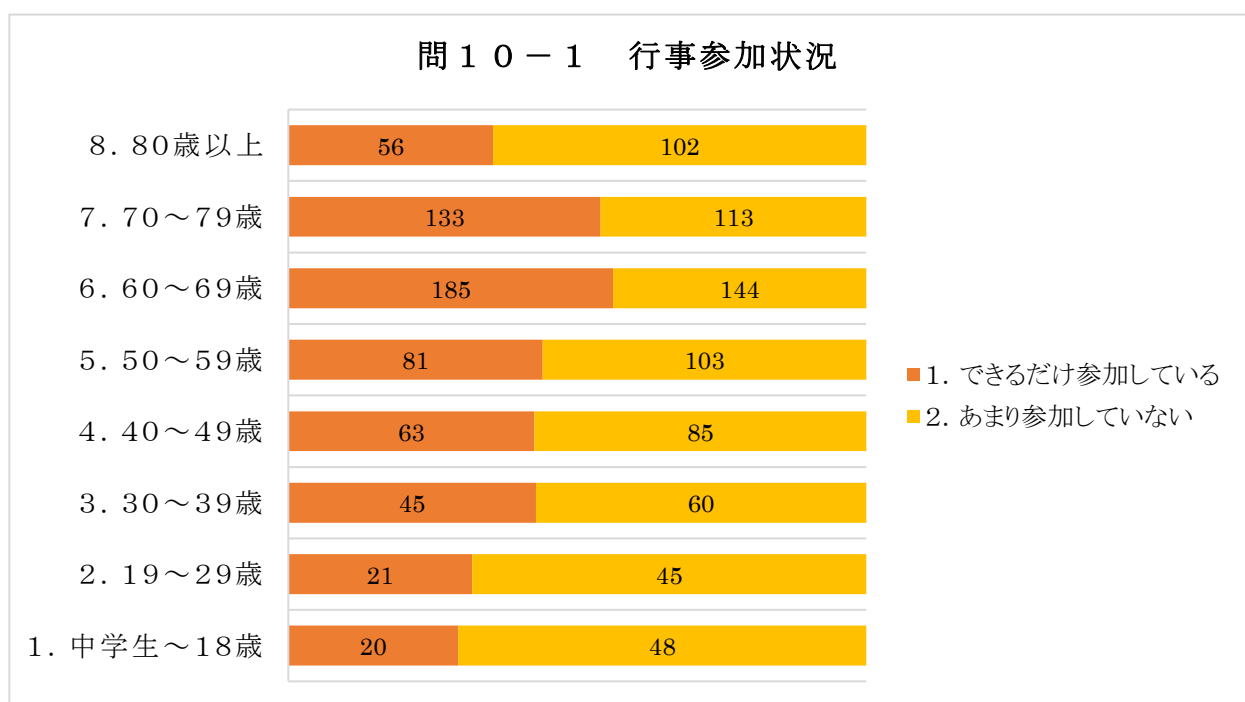
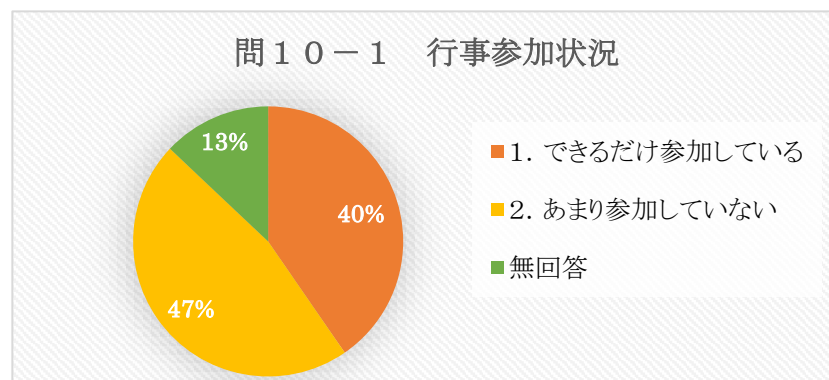
① 行事参加の状況（問10：単回答）

問10 あなたは、人との関わり、交流、繋がりを大切にしたい地区行事に参加していますか。
あてはまる番号1つに○をつけてください

「あまり参加していない」が「できるだけ参加している」を上回る結果となった。

世代別では60代、70代では「できるだけ参加している」が過半数を占めているが、ほかの世代ではすべて「あまり参加していない」が大きく上回っている。

また、男性より女性のほうが参加していない傾向が強いという結果になっているが、特に子育て世代である30～50代の女性において「あまり参加していない」傾向が強い。



② 行事不参加の理由（問10：自由回答）

中学生～18歳では、学校活動により参加が難しいとの意見が多数を占めた。

19歳～60代は主に働いている世代であり、仕事が休めないためとの理由が圧倒的多数を占めている。また子育て世代では子供の学校行事への参加があるための意見も少なくなかった。高齢世代では、心身ともに移動して行事に参加することが大変になっていることがうかがえる。

また、「出かけるのが面倒」「人の多い所が苦手」という意見も見受けられた。「やらされ感がある」「行きたいと思う行事がない」という意見も少なからずあった。

以下、世代別の意見をいくつかあげる。

※284件あり。「結果報告書_記述式回答一覧」をご参照ください。以下一部抜粋。

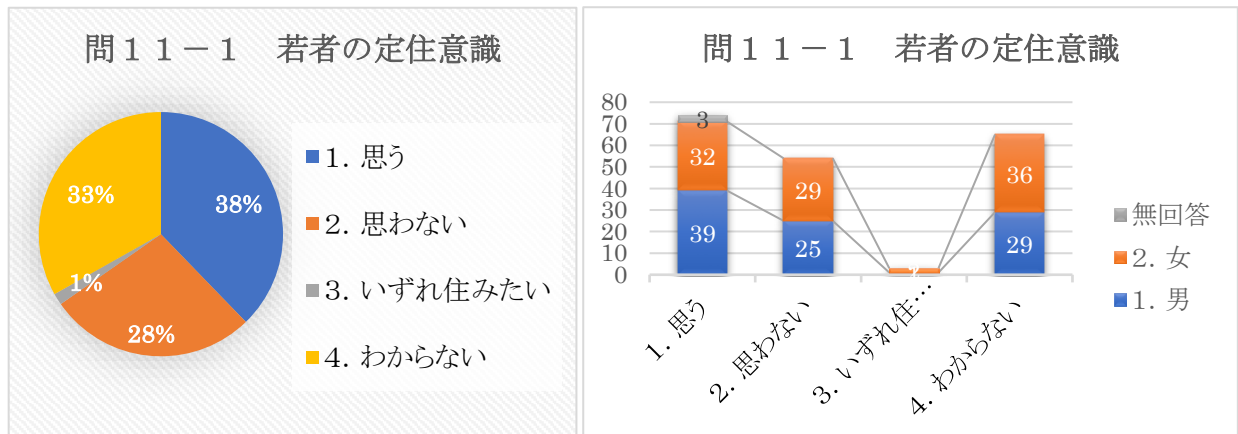
年齢	世代別 行事不参加の理由（一部抜粋）
1. 中学生～18歳	学校の部活が忙しい 時間がない、いつ何が行われているかよく知らない
2. 19～29歳	仕事を優先したい。個人の活動を優先したい。 同年代の人たちが少ないので行きづらい 時間的に難しい
3. 30～39歳	仕事が忙しいため 予定が合わなかったり、仕事で疲れてて体を休めたい。 時間がない。子供の予定 仕事以外で活動していることがあり地区行事まで参加するのが難しい
4. 40～49歳	仕事や他の予定を優先しているため 子どものことで忙しく、参加できない。 父と母が参加しているときに祖母の介護で家にいないといけない。 子供の予定（部活模試等）が優先なので
5. 50～59歳	仕事の都合等 マイペースで過ごしたい。 時間や体力に余裕がないため 介護をしているため、時間の予定が立たない。
6. 60～69歳	行事が多すぎる 会社員であり、土日は家庭サービスとなるため 体力低下 毎日の生活に精一杯
7. 70～79歳	健康面で不安があります。足、ひざが痛みあるので。 補聴器使用でも耳の聞こえが悪く、理解できない場面が多い。 高齢で不安
8. 80歳以上	高齢なため 年齢、体力の限界。申し訳なく思っています。 やっと生活している

(7) 若者世代が今後も下早川地区に住み続けられるか

① 若い世代に「今後も住み続けたいですか？」(問 1 1 : 単回答)

問 11 中学生～29 才の方にお聞きます。あなたは、「今後も下早川地区に住み続けたい」と思いますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。差支えなければ、理由もお書きください。

「思う」が「思わない」を上回っている。「思う」とした人の理由は頼もしいものが多い。「思わない」と回答した人の理由をみると、今後の改善によっては、下早川地区に住み続けたいと思ってもらえる可能性も十分にあると思われる。



※52件あり。「結果報告書_記述式回答一覧」をご参照ください。以下一部抜粋。

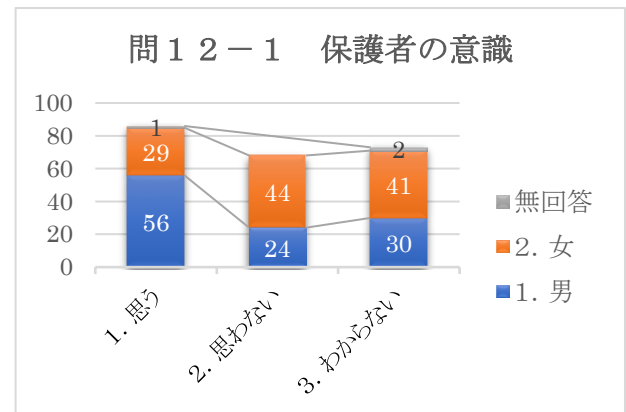
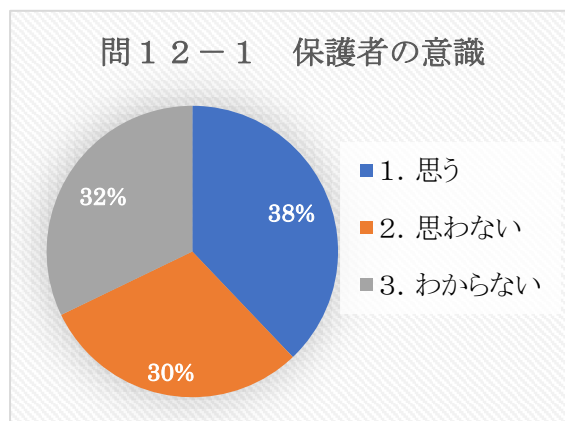
1. 思う	家業があるため 親がいるから しずかでゆっくりしていただける 活性化させるため！！ 下早川が好きでこの地へ帰ってきた。 下早川地区で育ち、地域の方々の暖かさがあって、住み続けたいと思う。
2. 思わない	住むには少し不便だから。 他にやりたいことがあり、それはこの地域では出来ないことだから。 ちょっと都会に住みたいから だんだんと廃れていくのが目に見えている。長所を生かしつつ、また活性化させられるならぜひ住みたいと思う。 コンビニが近くにない 学校が少なく、子供の人数も減っているから
3. いずれ住みたい	※理由記入者なし
4. わからない	まだ進路が決まっていない 不便なことが多く、住みやすい地域とは言えないけど、帰ってこないとな人がいなくなっていくのは分かるので、悩みどころです。 今後の下早川の状況によります(スーパー、銀行等)

② 18歳以下のお子さんを持つ方に「子供に住んでもらいたいですか？」
(問12：単回答)

問12 18才以下のお子さんをお持ちの方にお聞きします。あなたは、「自分の子供にこの地区に住んでもらいたい」と思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。差支えなければ、理由もお書きください。

「思う」「思わない」「わからない」の3つでそれほど大きな差はない。保護者が考えているそれぞれの理由は、下早川地区の現状の魅力と課題そのものであり、今後、どのような地域活動をしていくべきなのか、非常に大きな示唆(ヒント)を表しているのではないかな。

コメント一部抜粋(100件あり。詳細は集計データをご参照ください)



※100件あり。「結果報告書_記述式回答一覧」をご参照ください。以下一部抜粋。

1. 思う	継承してほしいもの、事があるから。 土地や家屋があり環境も良いので住んでほしいと思います。 人口が少なく買い物や通学には不便だが、人があたたかく、自然も多く、子供を産み、育てていくには良い所だと思うから。 将来この地域を守ってもらいたいから。 一緒に暮らしたいから
2. 思わない	結婚できなそう。結婚したとしても、孫を遊ばせる公園が近くにない。 働く場所もないので無理だと思う。 いずれ戻ってきてほしいけど、一度は家を出ていろいろ経験をしてほしいから。 自分の目標を見つけ、自由に進んでほしいから。 あまりに行事が多すぎてかわいそう 子どものやりたい仕事がこの地域では見つけられないので、夢をあきらめてまで早川に住んでもらおうと思わない。
3. わからない	本人の希望を尊重したいため 本人が思うようにしてほしいと思うが、複雑です。 将来の人口減少が進んだ場合には、行事、作業などの負担が重くなることが予想されるので本人の意思を尊重する。 静かで良いが子供が少なく公園や児童館のような休みの時のコミュニティーがあまりない

(8) 下早川地区の魅力、自慢できる点

① 下早川地区の魅力（問13：自由回答）

問13 下早川地区以外の所に1度でも住んだことがある方にお聞きします。下早川地区の「魅力」や「自慢できるもの（こと）」がありましたら、お書きください。

合計で309名から500個を超える回答があった。最も多かったのは全体の29%ほどを占めた「自然の豊かさ」であり、10%を占める「雰囲気」、8%ほどを占める「景色の良さ」を含めると5割となる。続いて22%を占めた「食べ物、水のおいしさ」。山の幸、海の幸、お米の美味しさ、そして水道水の美味しさをあげる人が非常に多かった。3番目は「人の良さ、人情」で15%を占める。住んでいる人々にとって、これらが下早川地区を代表する魅力と言えるだろう。他にもインフラ（上下水道や融雪溝）、行事、早川全部、具体的な店の名前といった多様な内容が挙げられている。

※309件あり。「結果報告書_記述式回答一覧」をご参照ください。以下一部抜粋。

分類	問13 下早川の「魅力」（一部抜粋）
自然	大自然の中で海、山と近くで恵まれた土地で農産物、新鮮な魚介類が手みじかに食べられる幸せと、早川の美味しい米、水が豊かで生活環境が良い事。 自然に恵まれ それぞれの食材に恵まれ 暖かい人々に囲まれ 自然の豊かさ美しさの中で生活できるところはそんなにはないと思います 食(米,酒,魚,山菜,野菜,水)が美味しい.海から温泉まで標高差による景観の変化等.
食べ物・水	水がうまい。米がうまい。 山菜がたくさんとれる 郷土料理が豊富で食べられる機会が多い
人情	他地域から来ても快く受け入れてくれる地域性。 近所の人仲が良い。通りがけに声を掛け合っている。 家族以外の人から助けてもらうこと。・地域での支え合いがあること。
その他	行事、祭りを大切にしている。 月不見の池、藤の花、花火大会、ほたる 主に県道沿いですが、水がおいしく、下水道が完備し、都市ガスがある。関東圏でもこれだけのところはそうありません。温泉があつて山があつて、ガソリンスタンドにスーパー、医院があり、高速ICが近く、海にも近く、生活の不便がない。田舎でも道路一本で何でも用事ができる場所が良い。 公道、私道等 除雪のレベルが高く、他と比べると全く違う。

② 下早川地区の見どころ（問14：自由回答）

問14 全員の皆様にお聞きします。市外、県外、外国の人達に是非紹介したい下早川のスポットがありましたら書きください。

合計で352名から、500件を超える回答があった。一番多かったのは、全体の25%を占める「月不見の池」であった。ただし、回答の中には「水があれば」「きれいになれば」という条件付きのものも少なくなかったが、住民の多くが月不見の池を非常に大切に思っており、強い愛情を感じさせるものであった。続いて「自然全体」が10%あり、同じく10%で「八十八か所」が挙げられた。以降、「笹倉温泉」「藤・藤まつり」「早川大花火大会」「日光寺・日光寺けんか祭り」「不動山」と続く。

注目したいのは、挙げられている件数こそ少ないが、かなり具体的に「ここから見るこの時間の景色」といった、知る人ぞ知る絶景ポイントのような場所も挙げられていた。読むと行ってみたいくなる。ぜひ多くの方にご確認いただきたい。

※349件あり。「結果報告書_記述式回答一覧」をご参照ください。以下一部抜粋。

問14 下早川地区の見どころ（一部抜粋）

月不見の池ですが、もう少し水がきれいになってほしいです。藤の花も鉢植えでも良いので、多く置いてほしいと思います。

現状では下早川のみでは厳しい部分はあるが、月不見の池の水がきれいになれば紹介できるスポットにはなると思う。

（綺麗になったことを前提で）月不見の池

下早川でのスポットは月不見の池くらい。ただ50年前くらいの時のきれいな水でなく残念。

八十八か所ほか沢山あり

県外の人にかなり楽しんでもらっているのが谷根八十八か所。

季節ごとにいろいろな輝きがある田園風景だと思います。朝夕でも見え方は違って、それぞれの季節で空気も違う。

日光寺。昨年春の桜のライトアップは素晴らしく、もっと宣伝するべきだと思います。また、日光寺の庭からの景色も最高です。また、日光寺はイチョウもとても奇麗なので、イチョウもいかしてほしいです。

不動山集落周辺の景観、特に紅葉時の溜池、および不動山。

早川花火大会及び祇園行事。

高谷根手前の坂よりの日本海の眺め。

谷間に田んぼが広がる風景。普濟寺ー赤沢辺りから夕方見る景色がキレイ。

6月ホテルの里。

東海地区からみた農道一本道からつづく日本海！絶景スポットだと思います！

特定のスポットでなくて、日々の集落の様子や集落行事のほうに住民と触れ合えるので、そっちを紹介したい。

(9) 地域づくりプランの5つの事業について

① 伝統行事活性化事業について（問15（1）：自由回答）

(1) 伝統行事活性化事業について

日光寺けんか祭り、早川大花火大会、月不見の池藤まつり等の伝統行事を地区全体で存続させ観光に結び付けようとしています。しかし、人集めに苦勞し存続の危機を迎えている行事もあります。このため、改善の方策についてお考えがあれば記載してください。

行事全体への提案として2つの意見が最も多かった。

幅広い協力者募集 ※約28%	担当地区だけでなく、下早川地区全体、糸魚川市、県内外から人と募る。また、年齢もより若い男女からも参加を募る
宣伝を強化する ※約16%	もっと PR する。新聞、ラジオ、テレビ、マスコミ、広告、ポスター、小中高校、インターネット(SNS)。あらゆる方法で宣伝強化する。

他には「無理をしない」という意見が10%ほどあった。

※339件あり。「結果報告書_記述式回答一覧」をご参照ください。以下一部抜粋。

伝統行事	代表的な意見・提案
日光寺けんか祭り	過疎地のお祭りの存続なので、所詮人材不足は明らか！市民ランナーの様に広く参加したい人を他部落、市内、県内外から募っては…伝統行事は消滅してはならないと思う一人です。 駐車場の確保！！
早川大花火大会	駐車場の少ないと言われる。 財源の確保が一番と思います。早川大花火大会の「収支報告書」も回覧板で報告してください。
月不見の池藤まつり	月不見の池への道順をよく聞かれます。簡単な案内図があれば。 月不見の池の水を年中水がある状態に 最盛期の池は藤が綺麗でしたが、今の池の水は汚れ見る影もない。 月不見の池の水をきれいにしてほしい。

本問には、たくさんの具体的な提案も挙げられている。ここではすべてをあげることはできない。参考として1つのアンケート票の内容（一部抜粋）を載せておく。

各行事の役員の皆様に敬意を表します。～省略～ とりあえず思いつくアイデアとして、日光寺まつりでは ①神輿のスタッフがご利益を感じられる特別な御守札の提供。②祭りの日、場所限定の特産品の販売（藤の花見酒、藤見大福もちなど）。③春の早川観光ツアー（酒蔵見学－山菜料理の朝食－日光寺まつり見学、花見－温泉入浴）。④日光寺秘仏の御開帳 ⑤日光寺での特殊甘茶の提供。白山社での特殊御神酒の提供。

※ぜひ、多くの方に内容すべてに目を通して頂きたい。

② ニコニコあいさつ推進事業（問15（2）：自由回答）

(2) ニコニコあいさつ推進事業について

「みんなで元気にあいさつ運動！」をスローガンにあいさつを呼び掛ける「のぼり旗」を建てたり、標語を募集しカレンダーとして配布したりしています。各家庭や地区ではあいさつがどのように定着し成果をどのように感じていますか。

記述式の問いであったが、3割以上の方から記入していただいた。

あいさつ推進事業について「良い」「成果を感じている」という方が6割近くとなり、「成果を感じていない」は3割ほどであった。この事業自体を「知らなかった」という方が5%ほどいるが、記述式であることを考慮すると「知らない」人の割合はより多いと想定される。「もっとPRすべき」とう声も少なくなかった。

印象的なのは子供たち(特に小学生)のあいさつについての高い評価である。以下の代表的意見でも明らかに、小学生からの「おはようございます」「こんにちは」の声に元気をもらった、大人もしっかりしなければ、と思うといった意見が沢山寄せられている。

「あいさつは当たり前の事で、普通に行っている。」という意見も少なくなかった。これらの回答をされている方はあいさつは「あたりまえ」のことなので「成果を感じない」と記述している傾向があった。

「周りは高齢者が多くて、あいさつをする機会がない」といった意見も散見された。また、「不審者と間違われそうであいさつしづらい」との意見もいくつかある。あいさつは、安心、安全(防犯)、交流といった地域活動の根幹に影響するものであり、今回提示された意見は、これからのあいさつ推進事業の改善するヒントになりそうである。

※490件あり。「結果報告書_記述式回答一覧」をご参照ください。以下一部抜粋。

問15(2) ニコニコあいさつ推進事業 （一部抜粋）

子どもさんが元気よくあいさつされるので元気をいただきます。

朝、登校時に(小学生)田んぼであいさつをされます。気持ちがいいです。

小学校の児童が大きな声で挨拶してくれると清々しい気分になり嬉しいです。自分も気持ちよく朝は挨拶からと思い実行しています。

小学校5年～思春期の娘たちは挨拶をしない。低学年の子供たちは元気よくあいさつする。

特に小学児童は、はっきり元気よく地域住民に掛け合っている姿は気持ち良い。

子どものあいさつが良いのに私たちもがんばらないといけないと思います。

不審者と思われるのでこちらからは挨拶しづらい。声掛けされたら挨拶はできる。

老人家族なので、お互い、おはよう、おやすみ、の言葉を必ず掛け合う。一日穏やかに過ごせる。

通りで人とも会わないので成果を感じない。

③ 特産品開発事業（問15（3）：自由回答）

(3) 特産品開発事業について

埋もれている下早川地区のおいしい食材を見つけ出し、加工業者とのマッチングにより特産品を生み出そうとしています。皆様をご存知の食材と調理法から特産品の候補となりそうなものを記載してください。

最も多かったのは「山菜」で17%ほど。続いて「米」が12%ほどで、3位に「柿」が8%で入り、「野菜」「しいたけ」「わさび」「ジビエ」「酒」と続いている。

「柿」は下早川地区で天皇（皇室）への献上品として届けていた江戸一の「柿」の復活を望む声が少なくなかった。他にも干し柿や柿ジャムの提案もみられた。

上記以外にも非常に多岐にわたる提案があり、少数意見ではあるが注目したいものが多いと感じた。「けんさい飯」「みょうてん」などの郷土料理や伝統食はもちろん、おいしい下早川地区の「水」を使ったもの、「すでに下早川地区には特産品がたくさんある」という意見、等々。

その中でも、ここでは、読んでいると飲んだり食べたりしたくなるオリジナル特産品アイデアや、地元の店舗、事業所をあげている提案も含め紹介したい。

※210件あり。「結果報告書_記述式回答一覧」をご参照ください。以下一部抜粋。

問15(3) 特産品開発事業 （一部抜粋）

百目柿（江戸一）を早川の特産品として生産する事業を立ち上げたらどうですか。以前は天皇（皇室）への献上品として届けていたと聞いています。

山菜の漬物（うど、わらび、ふきのとう、たけのこなど）。山菜の煮物や雑煮。

早川に昔から伝わっている地元の米や野菜を使った調理法を一から見つめ直し、今までにないご飯のおかずや究極のレシピを生み出す。

早川地区には山菜や野菜コシヒカリなど素晴らしい産物があるが一年間を通して供給するのが難しい

イノシシの肉。豚肉よりヘルシーでおいしいです。うちでは豚肉の代わりに使っています。

月不見の池の水で育てた酒米と月不見の池の藤の花からとった酵母から作った「生酒（ドブロク）」を猪又酒造様から作ってもらいたい（日光寺けんか祭り、藤まつりで限定販売）。

山川菓子店様から、地元産の「もち米、小豆、紫金時豆、藤の花」で作った、「藤見大福もち」を作ってもらいたい。

米ぬかを使った美容オイル、健康食品。

二日酔いに効果がありそうな柿の実ドリンク。

食材ではありませんが、藤の花がたくさんあるので藤の花のポプリ。ドライフラワーにしてリースの花材。雑草がたくさんあるのでドライフラワーにして。

藤の花の香りがする防虫ジェル、スプレー、防虫剤。

渋谷さんのわさび、猪又さんの日本酒、猪又さんの丸なす、渡辺さんの卵、上田さんのケール、岡田さんのパン、横井さんのメロン、斉藤さんのしいたけ。

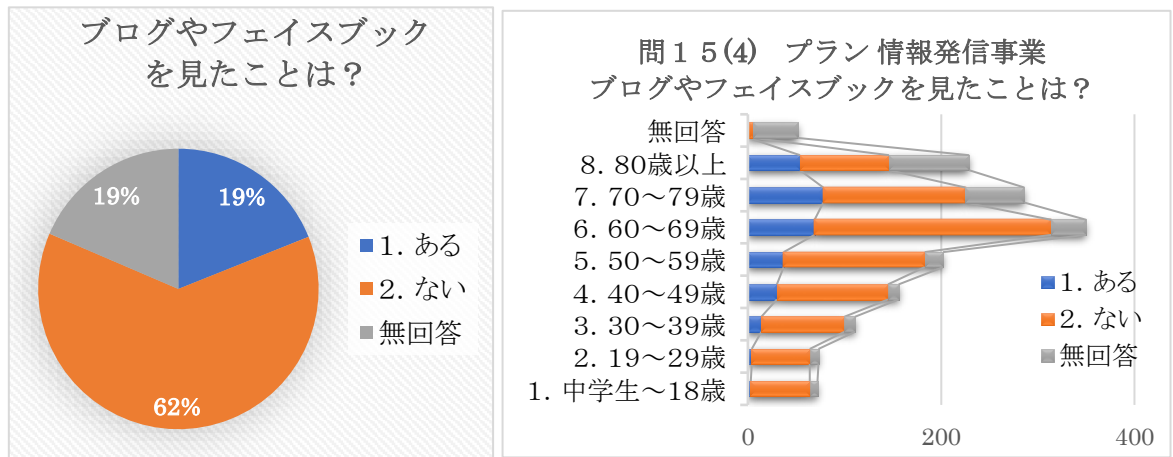
④ 情報発信事業（問15（4）：自由回答）

(4) 情報発信事業について

下早川地区内で実施される行事等取材し、「藤のさと通信」（4回／年発行）のほか、ブログやフェイスブックで紹介しています。これらを見たことがありますか、またどのような情報提供を望みますか。

a ブログやフェイスブックを見たことは？

見たことがある人は19%と少ない。特に若い世代では、ほとんどの人が見たことがないという回答になっている。周知が強く必要だと思われる。



b 情報発信事業-意見

全体を通して、紙で発行している「藤のさと通信」への高評価が多い。要望として、「発信回数を増やす」「身近な小さな出来事も発信」「海外に向けた発信」等々の意見が寄せられた。

ブログ・フェイスブックを見たことがない人が多い結果であったが、意見欄では、ネットでの情報発信活動自体を知らない人が少なくなかった。また、高齢者世代では、インターネットの情報を見る端末（機械）を持っていない方も多い。

注目したいのは、紙での情報発信を楽しみにしている人が多い事であり、うれしい意見であろう。そして、紙やインターネットの情報だけでなく「広報無線」などの利用提案もあった。これら様々な手段での情報発信・共有を試みる必要がある。

※132件あり。「結果報告書_記述式回答一覧」をご参照ください。以下一部抜粋。

問15(4) 情報発信事業 （一部抜粋）

下早川に住んでいる人しか知らないようなスポット、情報などを紹介していただけると面白いです。

良い面だけを紹介するのではなく、問題・課題についてもどんどん触れていくべき。年配の方で現状を知らない人もいるかと思う。

行事の話題だけでなく、町のちょっとした話題（「〇〇さん家の庭の花がきれいです」「ペットがかわいいです。」など）も提供して、もっと頻繁に更新してほしい。更新頻度が少ないとあまり見なくなってしまうので。

藤のさと通信は毎回楽しみに読んでいます。

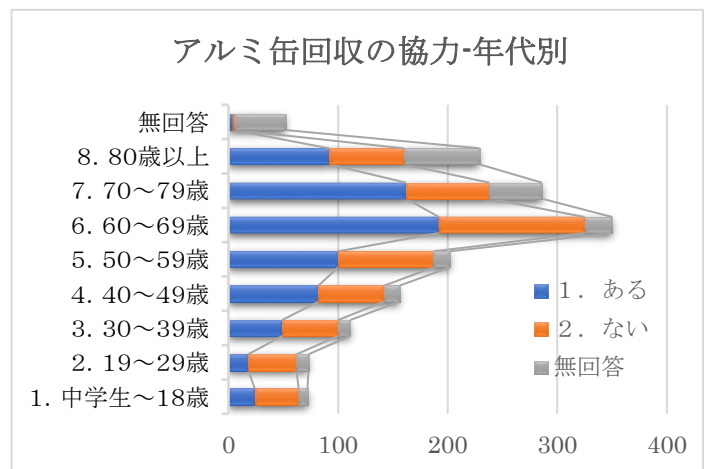
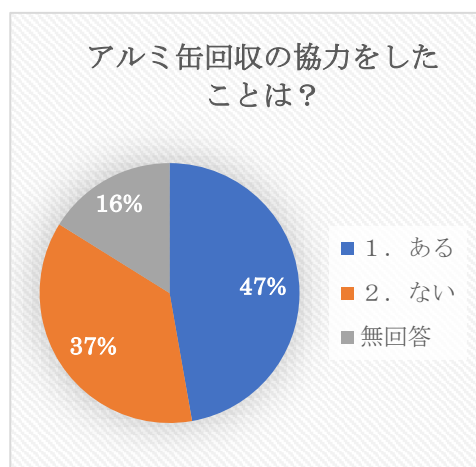
⑤ プラン 資源物回収事業（問15（5）：自由回答）

(5) 資源物回収事業について

自治振興協議会でアルミ缶を回収し業者に販売した収益金は、図書等を購入し小学校や保育園に贈呈するほか、地区内で開催される各種行事等に支出しています。アルミ缶回収に協力したことがありますか。また、協力していただくためにどのような事が必要ですか。

a アルミ缶回収に協力したこと

回収協力をしたことが「ある」人が「ない」人よりやや多かった。「ない」人の中では、アルミ缶回収活動自体を知らなかった方が多い。また高齢者の方々からは「協力したくても足が動かず、持っていけない」という意見も多かった。地域住民の意識としてはアルミ缶回収への協力・関心は、今回の結果よりも実際は相当高いと思われる。



b 資源物回収事業-意見

意見は大きく2つに集約され、「集まりやすさ(回収場所を増やす 等)」と「回収していることの周知徹底」についての提案・要望がそれぞれ4割ほどで多数を占めた。

その他の意見としては、活動への評価の声も目立った。また、この活動での実際の収益金額や還元先をより広く繰り返し周知することで、よりやる気がでるといった「情報公開・共有」を要望する声も少なくなかった。

※342件あり。「結果報告書_記述式回答一覧」をご参照ください。以下一部抜粋。

問15(5) 資源物回収事業 （一部抜粋）

よいことだが指導奨励の言葉が少ない。だから徹底周知されてない。収益金など目的をもっとはっきりさせる。

収益がどれくらいなのか。各種事業にどんなものを贈呈したのか、細かく知りたい(自分も参加しているんだと実感したい)。

お年寄りの一人暮らしのお宅には電話で自宅まで回収に行くシステム等。

お年寄りの方が多いため回収しに回る。

小中学校では回収していますか？子供が「集めているよ」と言うと親が回収に協力してくれると思います。

(10) 下早川地区の活性化についての自由回答

① 下早川地区の活性化全般について（問16：自由回答）

問16 下早川地区の活性化などについて、ご意見がありましたら、お書きください。

263名の方から活性化についての意見をいただいた。一行でズバリ、いった意見から、A4用紙を追加でアンケート票に貼って書いてあるものもあり、いずれも鋭い指摘、貴重な提案であった。

意見の分類・整理をするのが難しいほど、内容が多岐にわたっている（非常に具体的なものや、活性化とは？といった考え方について、等々）。

あえて比較的多かったテーマをあげるとすれば「地域に食べ処が必要」「人口減少・若者定住が必要」「公園の設置希望」については複数の意見が見られた。特に「公園」については小さな子供を持つ若い世帯からの切実な要望が少なくない。

「近くの老朽化した工場跡からの落下物が危険」「県道を通る車のスピードが危ない」「中山間地域直払・下早川集落協定の活動と連携」等々の見逃せない指摘もたくさんあった。図式化したり、書ききれずに→（矢印）でグルッと空きスペースに導いて続きを書いているものなど、地域への強い想いが感じられるアンケート票も多い。

以下に、ほんの一部ではあるが、比較的多くの方から提示されたテーマについてのご意見をあげておく。

※263件あり。「結果報告書_記述式回答一覧」をご参照ください。以下一部抜粋。

問16 自由意見 （一部抜粋）

子どもたちが安心して遊べる公園を作ってほしい。休みになっても行くところがない。

年寄の遊び場がない。地域のお年寄りや毎日会館で何かしらやっています。早川はなぜないのか？町のあいた所に、ベンチなどを置いたらどうか。

今住んでいる子供が将来早川で生活することを考えると、今から上早川一下早川と分けて考えず、早川全体で考えていくということも今からやっていく必要があると思う。

下早川は食べ処がない。商店街の活性化が必要だと思う。

学習スペースのある図書館があると良いと思います。糸魚川や青海の友達がよく利用しているという話を聞き、身近にそのような施設があればと思いました。

下早川地域づくりプラン活動は、集落にとっても心強いものです。プラン作りもアンケートも1回きりでなく、地域住民の対話活動として、続けていただきたいと思います。

今後のプランの実践において、中山間地域直払・下早川集落協定の活動と連携したものになるよう、ご配慮願います。

空き家状況が知りたい。まとめてほしい。

区内の大きな工場が老朽化で、腐った金具が落ちている。大きな物が外れて落下しないかとても心配です。通学路にもなっているので恐ろしいと思います。

無理に行事、活動を存続させない事です。

何をすれば活性化するではなく、なぜ活性化していないのかを考えるべき。行事に魅力がないのか、仕組みが良くないのか、様々な問題があると思います。

3 まとめと考察

(1) アンケート結果の整理として

まず、これまで見てきた集計結果を順に振り返ってみたい。

問1から問5までの回答者(地域住民)の基本構成から見えることは、下早川地区で生まれ育った割合が7割という高い率であり、職業として農業従事者が比較的多い(「会社員の次に多い」)。収入に対する意識は「満足」「どちらでもない」で約半分(「満足していない」が全体の半分程度)となっており、こちらも比較的満足度が高い。下早川地区は、地元に着している住民が多く、また農業世帯が多く、安定した生活を送っている人が比較的多い地域といえる。

安定しているということは、安心につながり、郷土愛の高さにもつながる(このことは以降の質問の回答にも表れている)。その一方、環境に応じて変化していくことが苦手とも言える。問6の地域行事については、行事が多いことへの改善要望、特に運動会についての開催時期、内容の見直しを求める声が非常に多くなっており、以降の問15の回答にも変化を強く求める傾向がみられる。

問7は、今後の幅広い地域活動の方針を決める上での重要な設問である。通常糸魚川市のような豪雪地帯では、不安、困りごとの一位は「雪に関するもの」(今回は「3. 除雪作業など冬の生活に関すること」がそれにあたる)であるが、下早川地区では1位に「12. 商店が少なく、日常の買い物が不便なこと」がきている。これは下早川地区の特徴的な課題といえよう。

問8、9、10では、地域活動への参加意識についてであった。女性や若者の意見の反映や、地区内の人との関わり・交流の大切さについては、否定的な意見は非常に少ない。一方、問10の行事参加状況に関しては「あまり参加していない」が「できるだけ参加している」を上回っている。不参加理由(自由回答)を含めて考慮すると、本来の参加意欲は高いが、学校の活動(部活など)や仕事が休めない、高齢化で体がもたない、という回答が大多数を占めている。地域活動の意欲を大切に、地域住民の現在の状況を考慮した参加しやすいあり方を模索すべきだと思われる。

問11、12は若者が下早川地区に住み続けるか、について当事者である若者と、その保護者の方々に質問したものである。結果は手放しで喜べるものではなく、住み続けられないと思われる割合は少なくない。その理由を参考にし、対策を考えていく必要がある。

問13、14の下早川地区の魅力・見どころの問いでは、「自然」「食べ物」「人情」が下早川地区の三大魅力であることが見事に現れた。「見どころ」は、「月不見の池」を筆頭に「八十八か所」「藤・藤まつり」「早川大花火大会」「日光寺・日光寺けんか祭り」「不動山」「温泉」等々、こちらも改めて地域を代表する見どころが挙げられた。また、一つ一つ

は少数意見であっても具体的にあげられた魅力、見どころは、今後の下早川地区の魅力向上、観光アピールのために参考になるであろう。

問 15 は地域づくりプランの各事業についての意見をいただく問いであった。ほとんどが自由記入欄であるにもかかわらず非常に多くの方々から回答をいただいた。現時点での活動内容についての評価、励まし、鋭いご指摘や批評、多岐にわたってご意見をいただいた。今後の地域づくりプランを実施していくうえでの貴重な財産になるものであり、今回のアンケート実施の大きな成果であった。

最後の問 16 は「下早川地区の活性化」という、非常に大きな範囲の問いかけであったが、最も回答の記述量が多く、図式化やイラスト入り、別紙張り付けなどもあり、みなさんの地元に対する強い思い、熱意を感じさせるものであった。

(2) 全体を通したまとめ

今回のアンケート結果は、下早川地区に住むみなさんの日頃感じている思い、意見を公に集めることのできた、価値あるものであった。地元下早川への深い愛情、地域への貢献意識、そして、なんとか地域をより良くしたいという強い気持ちがうかがえるものであった。

一方、これから地域づくりプラン活動を実施していくうえで、考慮すべき点も明らかになった。それは、昨今の厳しい人口減少・高齢化の流れの中で、地域活動に対して住民のみなさんが負担感を強めてきていることである。

以上、大変収穫の多かった今回の結果を、私たち住民全体の共有事項としてしっかり認識し、これからの下早川地区をみんなで考えるきっかけにしたい。

また、ここで繰り返しをお願いとなるが、ぜひ多くのみなさんに自由記入設問のすべての回答をまとめた「結果報告書_記述式回答一覧」に目を通していただきたい。きっと、心を動かされ、行動につながる刺激を受けられる。

最後に、お忙しい中、記述式の多いアンケートにご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。私たち全員が一丸となって、よりよい下早川地区にしていきたいと思います。

以上

下早川地区自治振興協議会
事務局：下早川地区公民館
〒941-0023 新潟県糸魚川市上覚 2 2 - 2
電話番号/025-555-2704 FAX/025-555-2704
shimoko@bz04.plala.or.jp